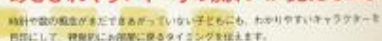
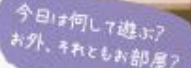
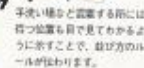
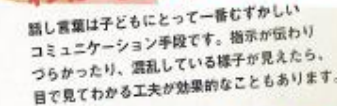


誰だて「これから何が起くるのか？」見通しが
もてないときは不安です。発達に偏りがある子は、
特にその不安をうまく表現できなくて、みんなと違う
行動を起してしまうのかも。園生活の見通しは、
手順を視覚的に示すことで促わることがあります。



 この座カードは
付録についています





ホットスペース

ついでに学習などスペースを区切って、一人または少人数でくつろげるゾーンがあると、自然と状態が安定しやすくなります。



クワイエットスペース

かんしゃを隠して暮らしたり、泣いてしまったときには、保育者の外に一人になって気持ちを落ち着かせるようなスペースをつくっておくことも大切です。保育者の対応などを代用しても。



一人用のマット

刺激に反応しやすく集団の中で不安定になってしまう子どもも、自分のスペースが明確になると安心して過ごせます。

「ここに敷きマット」ではなく、「ここが自分のスペース」だと「マットの上で寝ていい」と思ってもらえます。



49ページもcheck



Point 3 スペースを明確にする

朝からボーっとしていたり、ほかの子のおもちゃをじやましたりしてしまうのは、自宅とは違うおもちゃや友達など、たくさんの刺激に混乱している状態と考えることもできます。この混乱を少なくする方法は、「ここに行けば、これであそべる」というイメージがはっきりともてるようにすること。だから、「このあそびはココ」とゾーンを決めて分かりやすくしておくことも大切です。

いつもこのあそびはココと決めて、保育者があらかじめセットしておく。子どもたちもあそびの場所が分かります。



chapter 1

4.5月 年度はじめの 憂うつ

どうしてこんなに泣いてばかり？
ガブッとしたり、叩いたり……
新しい環境になじみづらい子どもたちに
イライラすることが増えてしまう新年度。
子どもたちが困っている原因を探してみませんか？
対応のヒントが見えてくるかもしれません。



Point +α 落ち着く工夫

ちょっと大変だけど、このひと手間で
どの子にも居心地のよい空間になります。

1 縫わずにカンタン 天蓋を作ろう！

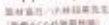
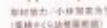
1 石膏ボード用のアンカーを天井に固定して、フックを引っ掛けて、全4か所。

2 天井のフックにでんぐすきと結び、垂らしたてで、その先にはカーリングを結び、つっぱり棒を渡す。

3 オーカンジーなどの薄い布をつっぱり棒に引っかけて、クリップで留める。布がふんわりとたるむように、反対側のつっぱり棒にも渡す。

2 足カバー

動き回れるけど足が冷たいという子どももいます。100円ショップで買える椅子の足カバーをつけて防寒をするなどの工夫もできます。



自分のペースを
崩したくない

知れなかつたのはならないことや、
友達たちを見ていれば勝てるはずな
のに……。どうしてもそれが嫌な
子ども達で、中には……。ほか
の子どもたちとの動きがアレレレ
ヤーになっていたり、クラス集団
が、一斉に動くことに対して、ペー
ス合わせるのが、ずかすしいのか
も知れませんが、大勢の中に入っ
ていくことに不安を感じているこ
どももみられます。



対応のヒント



001

「次はこんなおもしろいこと♡」

夢中になっているあそびは、その子たちにとって重要な意味のあることです。それをさげして別のことをしてもらうわけですから納得できなくて当然。そこで、次の活動の管理で少しだけ、子どもたちが大好きなおもしろい活動を入れてみるのもよいと思います。



002

事前の話し合い

「みんなはここで遊ばずにするけど、○○ちゃんはどうする？」と、本人と予定を話し合っておく。納得してあそびに没頭しつづけるケースがあります。あらかじめ、絵や写真を使ってあそびものを説明しておくのも一つです。イラストのように「○○ちゃんはおもしろい」と約束しておくのもよいでしょう。



003

フリーと担任 役割交代で個別のかかわりも意識する

活動の切り替えがしやすい子どもがクラスにいると、どうしてもその子への関わりが増え、ほかの子の保護者の不安につながることもあります。年間全体への関わりを大切にしながら、フリーで遊べる状況や先生の先生にお預けして、クラス一斉の子どもと個別に向き合う時間を確保するなど、かかわりの少ない子をつくらないようにしたいですね。



「一人も、みんなも大切」のジレンマ



同じことは繰り返り繰り返す。次にやってほしいことがあるのに、いつまでも同じことをしてかたがたと取りかかってくれない子どももいますね。大人からすれば、同じことをくり返しているように見えますが、子どもは「もう一回やりたい」とか「これがこうなるまで」などと考えながら納得するまであそぼうとしているのかもしれません。

行動の切り替えに必要なこと



対応のヒント



001

集中できる立ち位置を

集中して話を聞いてほしいときは、適切な距離が子どもたちの目に入らないように保護者が立ち位置を変えることも一つの手段です。例えば、お話を聞いてほしいときに、部屋であそんでいる子どもたちの目が届くように、そちらが気になってしまう子も、そのため、カーテンを閉めたり、壁を背にして立たないようにしています。

▶14ページもチェック



多すぎる室内装飾も集中できません

一生懸命作った装飾品ですが、子どもに楽しんでもいいですね。でも、子どもによっては目も眩しくなってしまう。保護者の見てほしいものよりも目も眩しくなってしまう。本当に必要な装飾品のほか、子どもが集中しづらいもの。



002

子どもの視線で何がわかりますか？

大人と子どもでは目の高さがいっぱい違います。保護室でも園庭でも、見えているものが違うことでしょうか。子どもは目の高さで見えておもしろい。何がわかりますか？ 集中できそうです。それとも視線にふられていませんか？ 視線を低くして確かめたりと、環境構成のヒントが見えてきます。



読み方がおもしろくないの？！



耳よりも目からの情報で動いてしまう。一生懸命読み聞かせをしているのに、目をそらしたり、顔をうつろわしたり、手を動かしたり、子どもが集中できなくなってしまう。けれど、子どもによっても、同じようなものでも見えないものには反応してしまったりすることがあります。読み聞かせの上下手の問題ではなく、目から入る刺激が魅力的なために集中できなくなっているのかもしれない。

8月

子どもも目線で見えてくる環境構成の基本





※別カラー(10~16ページ)も
参考にしてください。

対応のヒント

0001

集まる場所を明確に!

例えば、椅子を人数分並べておいて「集まって」と言えば、座ってこれると思います。高にビニールテープを貼って、「この丸の内に集まって」と言う方法もあります。子どもが集まる場所の目安がわかってくるとともに、テープの跡を後々に大きくしていき、最終的には目印がなくても、「先生の近くに集まって」と言えはなるようになると思います。

◆15ページもcheck!



0002

子どもの動線をつくる

保育室がガラシとしていけば自然、子どもたちは走り回ります。室内で座る置いて製作活動などに取り組みたい時間は壁面から机を出してあり、園庭に連なるガラスへの動線上に造形素材を収納した製作台を置いておくなど、環境による動線づくりも工夫できます。



0003

一人ひとりのあそびをイメージする

クラスにはダイナミックにあそびたい子も、じっくりと何かを作りたがる子も、本を読みたい子もいます。一人ひとりの「やりたい」をイメージして、保育室や椅子で保育室を仕切ったり、さらに玩具も配置することが大切です。



※「集まってって言ってるでしょ!」※



「自由に」は
意外に難しい
園では子どもたちが自発的に主体的にあそぶことが基本ですが、何の配慮もなく、自由にということでは、トラブルがあとを絶たず、取手がつかず、こぼれ、状況で何かを始めるようとしても、子どもたちが「聞く耳をもちたない」のは無理な話。怒鳴りたない気持ちで、くつと飲み込んで、保育室の環境構成と、そのときどきの状況で配慮していきましょう。

8月

子ども目線で見てくる
環境構成の基本



※別カラー(10~16ページ)も
参考にしてください。

対応のヒント

0001

怒るよりも「見せる」

何かを壊さず、言葉だけで伝えると子どもたちが理解できないことがあります。何とかなえようとする保育者は、つい「大声」になり、怒鳴ってしまいます。言葉に加えて、写真や絵、実物を見せるようにしましょう。子どもたちは視覚に理解しやすくなります。

◆12ページもcheck!



0002

かたづける場所もちゃんと「見える化」

自分のものを整理することにまだ慣れていない時期は、何をどこにかたづけるかわからない、目で見てわかるようにしておく、比較的しょうずにかたづけられる手があります。お風呂場の床や壁など、目につくところに貼っておくのも効果的です。

◆13ページもcheck!



0003

「親子でやる」と「ちゃんと」が育つ

入園・進園からもうすぐ半年。保護者は、「うちの子はすっかり園の生活に慣れたわ」と思い、持ち物の整理やかたづけなども子どもにやらせたいと思う。でも、まだまだ自分だけではおぼろしい子もいます。今の時期に、親子で一緒に整理をしたのかたづけたりすることで「ちゃんと」することの意味を理解できるでしょう。親子でやり直すこともできるでしょう。その「ひと手間」を大切にしたいと伝えていきましょう。



自分の持ち物くらい…… 68



それぞれに違う
「大切に」の意味
クレヨンや色紙はみんなのもの、それぞれは大切にしているのに、お道具箱の中がグチャグチャという子、お道具箱を「ちゃんと」かたづける「とか」「大切に」は、これまでもちゃんと教えてもらってきいていないのかもしれない。

8月

子ども目線で見てくる
環境構成の基本

